

先年松平新太郎因伯兩州領知之節相伺之伯州米子町人村川市兵衛大谷甚吉至今入竹島ける爲漁獵向後入島の儀制禁可申付旨被仰出可存其趣恐惶謹言

元祿九年子正月廿八日

土屋相模守 在判  
戸田山城守 全  
阿部豊後守 全  
大久保加賀守 全

松平伯耆守殿

宗對馬守義卿より出たる家譜に、元祿九年因幡國と朝鮮國との間竹島と唱ひ島有之此島兩國入合の如く相成居 不宜候に付朝鮮之人此島を參候事を被禁候段從公儀被仰出其後朝鮮國禮曹參判の家老使者前々年より再度差渡候處論談及入組候を今年正月廿八日義真國元は御暇被成下候節右竹島は日本人相渡候儀無益との事に候間被差留候段領主は被仰渡候由義真は被仰渡候に付義真歸國の上同年十月朝鮮之澤宮使對話仕候刻右被仰出之次第傳達仕爰に至り論談相濟候

尙此餘さまぐの御沙汰書世にさまぐ有へけれども見ることを得ざるまゝしるし置く、只此二通は不思議に其寫を得しまゝ、此處に抄舉して此一條の考證とすべきものなり。(未完)

東京地學協會記事

●評議員會及臨時會 七月八日午後五時半より本會々館に於て評議員會及臨時會を開く、出席者は榎本、花房、佐藤、金原、小川、田中、脇水等の諸氏にして、榎本會長議長席に就き重要事項の議決あり右終りて左の講演ありたり

一 唐太島の價值 神戸 應一  
一新硫黄島の探檢談 理學士 佐藤 傳藏  
傍聽者は前記諸氏の外徳川公爵、黒岡中將、荒井、山崎、高頭、鳥居、小林、石渡等の會員及び新聞記者、學生等合計百餘名にして同十時半散會せり

●總裁宮賞牌御親授 去る五月二十日評議員會に於て議決せる前主幹理學博士神保小虎、田中阿歌麻呂、理學士小川琢治の三氏に對し銅賞牌贈與の件は、本月十八日總裁宮載仁親王殿下の御裁可を仰き、全二十八日同宮邸に於て右三氏御召の上殿下より親しく左記賞狀を添へ御授與相成りたり、當日榎本會長病氣のため花房副會長陪席せり

東京地學協會記事

其一

理學博士神保小虎君は多年本會々務に參與し其功績著大なるを以て本會評議員會は本會制定の賞牌を授與するに決したり依て予は特に左の文を彫刻して之を授くるものなり

理學博士神保小虎君 明治三十年以來本會議員評議員主幹の任に當り功勞特に多し依て此の賞牌を贈り其の勳績を表旌す

明治三十八年五月二十日  
明治三十八年五月二十日  
總裁 大勳位 載仁親王  
會長正二位勳一等 子爵 榎本武揚  
主幹從六位 伊木 常誠

其二其三(田中小川兩氏は全文につき其一を略す)  
田中阿歌麻呂君(小川琢治君)は多年本會々務に參與し其功績著大なるを以て本會評議員會は本會制定の賞牌を贈與するに決したり依て予は特に左の文を彫刻して之を授くるものなり

田中阿歌麻呂君(小川琢治君)明治三十一年以來本會

五九九 (599)